

らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

ビーンズの一次通過数、なるほど、噂通り減ってるなあ……。

応募総数が去年より少し減ったことを差し引いても、この通過数を見ると、通過基準を厳しくしたんだと疑わずにはられません。

いや、絶対そうに違いない。

一次通過率 8.4 %とか、電撃以上に狭き門だし。

そんなわけで、次こそビーンズに投稿しようと思気込んでいた自分にとっては怖い結果でしたが、小説投稿の難しさは通過率では測り切れない部分にあると思うので、臆せず出してみようと思います。

まあ、一次落ちしても名前が出ないんだから、ダメ元でどんどん出してみるのが得策ですよ。

「この人が一次落ちでした」という、落選者リストが発表されるとしたら、そりゃちょっと躊躇もしますけど。

ちなみにそのリストに、落選数や年齢が書かれたりしたら、もはや完全に拷問レベル。

・常木らくだ (●●歳) 5本投稿中、5本が一次落選 【評価・D-】

みたいな。

そしてそのページが、最終発表が終わった後も、ずっと消えないで残るとか。

もしそういう賞が本当にあったら、通過発表時のスリルは半端じゃないと思いますけど、まず誰もその賞に投稿しないでしょうね。

とまあ、そんなド M な妄想をしてニヤニヤしている場合ではなく、次に書く話の題材をそろそろ決めたいと思います。

先月は王道な題材で書いたから、今度はまた趣味に走るかなあ……。

今年の常木らくだは、本気と書いてマゾと読む。

いや、間違えた。

今年の常木らくだは、本気と書いてマジと読む。

そんな意気込みで投稿した電撃の二次が、いよいよ一週間後に近付いてきました。

まあでも、今年はいつになく落ち着いた気分です。

今まで変に複数通過していたので、正直「1本くらいは通るよね」と期待する気持ちがあったんですが、今年はまだ吹っ切れた感じですね。

そのおかげで、去年までは緊張して何もできなかった7月に、今年は新作を1本書いて送ることができたので、自信作が一次落ちで逆によかったと思います。

というのは半分くらい負け惜しみで、本当は、本命の作品も通って欲しかったけれど。

あ、そうそう。

7月末のジャンプ小説は、タイトルにも書いた通り、31日に無事に投函を完了しました。

しかし今回は、いかにも流行を後追いした感じの長文タイトルなので、もし通過リストに載ったらブーイングを受けそうだ……。

まあ、いいさ。

一次通過したら純粋に「通過できてラッキー」、一次落ちしたら「タイトルが公表されなくてラッキー」と思うことにします。

というわけで、今日は以上です。また明日！

一迅社の一次発表って、一体いつなんでしょうね。

少女系のアイリスは6月下旬に発表されたので、自分はその時点で一迅社の呪縛から解放されましたが、少年系の方は一次がまだ出てないんですよね……。

これはもう、「一次通過作品0本」ってことなのか？

このまま第3回をなかったことにして、こっそり闇へ葬り去るつもりなのか？

もしそうだとしたら、今月締切りの一迅社は、投稿を見送るしかないですね。

「次から発表早くします」とは宣言してるけど、10 か月以上待っても去年の一次結果が出ないようじゃ、ちょっとその賞を信じられないもんなあ……。

まあでも、8月末まで残り一か月あるので、今月中に結果が載ることを期待しています。テキストデータはもう準備してあるので、できることなら予定通り投稿したいですし。

それから、結果を待っている小説すばる。

過去の情報を調べてみたら、一次発表は8月の中旬らしいので、たぶん17日発売の来月号に載るんだろうと思われます。

よーし。

17日になったら、本屋へ走るぞー。

野性時代もそうでしたが、雑誌発表が最速（というかHP発表がなく雑誌にしか載らない）というのも、アナログなドキドキ感があっていいですよ。

そんなわけで、7月ほど集中してはいないものの、8月も数か所で発表がある予定なので、心して結果を待とうと思います。

先月書いた長文タイトルの作品を、自分用に印刷してクリアファイルに収めたんですが、背表紙にタイトルを書き切れないという事態発生。

ううむ……。

さすが合計 33 文字……。

これ、今回は狙って付けたからいいんだけど、長文タイトルって色々と不利だと思う。

投稿作品なら別に構わないけど、出版された時に正式名称で検索してもらえないのは、圧倒的なマイナス要素ですもんね。

なので、

- ・ 英語タイトル ⇒ スペルを間違われる
- ・ 機種依存文字 ⇒ 携帯等で打てない
- ・ 「!」「☆」等の記号 ⇒ あり・なしで表記揺れが起こる
- ・ 長文タイトル ⇒ 正式名称を覚えてもらえない

等々は、避けた方が賢明だと思います。

まあね。

今から出版後のことを心配するとか、完全にとらためですけど。

ちなみに、次に書く作品については、いまだに激しく迷い中です。

えんためガールズは残念だったものの、少女系もまだ諦めたわけではないので、今月は久し振りに少女系の話を書こうかな、と思ったり。

アレにするかな……。

ローマの6月の神父の話、最初から根本的に書き直すか……。

というわけで、とりあえずルルルを目標に頑張ってみます。

去年の電撃で一次通過した、「神父とローマと6月の花嫁」。

キャラクター設定は割と気に入っているものの、ストーリーがいまいちだった自覚があるので、次はこの話を根本的に書き直そうと思います。

しかしこの話、「ローマである必要ないよね？」と、選評で言われたんですよ。

うん、その通り。

自分自身も、そう思った。(ダメじゃん)

別にロンドンでもパリでも成立する話なんですが、都市名を具体的に決めた方が脳内でイメージしやすいので、何となくロマンチックなローマを選んでみました。

ただこの話の場合、場所はストーリーに絡んでこないなので、確かに都市名を出す必要はなかったと思います。

それか、ローマと書くにしても、さらっと書けばよかったんですよ。

全然重要じゃないのに、意味ありげにタイトルに入れるから、指摘を受けるわけで。

あと、こっちは指摘を受けてないけど、「花嫁」という単語も作中で綺麗に使えていないので、そこも直すべき箇所だと思います。

あと、「6月」もさほど重要じゃないな。

そう考えると、タイトルで機能しているのは「神父」だけだ。

その辺の反省をふまえつつ、新しい要素を取り入れながら、書き直しに取り組もうと思います。

できれば8月中に終わらせて、9月はSD用の話を書きたいなあ……。

当ブログ「らくだ図書館」も、開設 7 か月を迎えました。

いやあー。
早いもんだ。

コメント欄を閉じているせいもあって、ひたすらパントマイムな感じのブログですが、それでも定期的に見てくださっている方もいるようで、書き手としては本当に嬉しい限りです。

ちなみにコメント欄を閉じている理由は、「コメントが来なかったら寂しくて泣いてしまうから、そうならないように最初から閉じておこう」という、スーパー後ろ向きな理由です。

ああ、そうさ。
お前は弱虫だと、なじってくれよ。

まあとにかく、これからも毎日ワナビブログを更新していくので、引き続きお付き合いいただければ幸いです。

それにしても、ワナビの世間的な地位の低さは、本当にどうにかしたいですよ。

小説を読むことも書くこともできるワナビは、読むことしかできない普通の読者よりも、絶対に偉いと思うんだけどなあ……。

まあ、こんなことを書くと、「ワナビの選民思想だ」と言われそうですが……。

でも本当に思うんですが、自分の心の中にある喜び・怒り・悲しみといった感情を、物語に乗せて伝えられるというのは、誇っていい能力だと思うんですよ。

少なくとも、万人にできることではないと思うので、その能力があるのに小説書きをやめてしまったら、心底もったいないと思います。

そう信じて自分を励ましつつ、今月も執筆を頑張ろうと思います。

先程、ルルル文庫ブログを見てきたんですが。

なっ！

6月末締切り分の選評を、今週から発送開始だと！？

締切りから一か月で選評が届く賞って、少年系・少女系すべて含めて、ちょっと聞いたことがないですよ
ね。

遅い分は8月末以降になるみたいだけど、それでも二か月ちょいで評価シートが届くわけだし、これはもうルルルを最速認定していいんじゃないでしょうか。

うーん。

大賞の枚数制限が100～105枚に変わった時は、ルルルはもう勝負を捨てたんだと思いましたが、まさかこんなところで本気を出してくるなんて……。

というわけで。

次の締切りは秋以降になるようですが、とにかく一度参加してみようと思います。

今まで自分は少女系で通過した経験が一度もないんですが、落ちる理由がちょっとわからないので、評価シートは是非とも欲しいところ。

そもそも、小説になっていないのか。

小説になっているけれど、少女系になっていないのか。

小説になっていて少女系にもなっているけれど、話が根本的に面白くないのか。

評価シートが常に100%正しいわけではないにしても、コメントを読めば改善の手がかりはきっと掴めると思うので、いつもより枚数を少し多めに書いて投稿してみます。

目標は、ジャスト100枚だ……！

フロッピーディスクって、まだ売ってるんですね。

ダイソーに普通に置いてあったので、「ん？」と思ってヨドバシへ行ってみたら、ヨドバシにも普通に置いてありました。

あれ？

フロッピーディスクの国内生産は、もう完全に終わったはずなのに？

不思議に思ってパッケージをよく見たところ、イメーションの海外工場で作った製品を、商社が輸入して販売しているみたいです。

というわけで、とりあえず1パック購入。

CD-Rなんてシャレた物は、信用できんわい！

わしゃあこれからも、フロッピーで投稿するぞい！

そんな頑固ワナビの自分ですが、売場に「ラストチャンス」みたいなことが書いてあったので、余らない程度に買いだめしておこうと思います。

しかしこれ、何枚くらい買ったらいいだろう。

自分が、ワナビ界から消えるのが先か。

もしくは、フロッピーが市場から消えるのが先か。

はたまた、フロッピーで投稿可能な賞が消えるのが先か。

どれが最初かはわかりませんが、幸いそれほど高価な物でもないので、少し多めに買っておくことにします。

次にフロッピーを使うのは、今月末の野性時代かなあ……。

えんための三次通過作品が、一足早く発表されましたね。

日付けは 8 月 10 日なのに今日更新されてるって、二次に残れなかった自分には関係ないけど、なんかちょっぴり得した気分。

それにしても、三次通過&最終候補とか、本当にうらやましいですよ。

残り 6 作ともなれば確実に編集者の目にとまっているはずだから、受賞できなくても声をかけてもらえるかもしれないし、自分もいつかはそんな経験をしてみたいものです。

と、思い始めて、早くも三年が経過……。

中学校や高校なら、新入生が卒業している期間だよ……。

まあでも、まだまだ平気！

せめて小学生が卒業するくらいまでは、今のペースで書き続けようと思います。

それはそうと、えんための評価シートが気になるところ。

たぶん去年と同じく 9 月中旬～末頃に届くと思うけど、えんための選評は読むのにちょっと覚悟が必要なので、それまでに心身の状態を整えておきたいですね。

まあ、「えんため？ 普通に誉められたけど？」って人もいるようなので、ただ単に自分の作品が悪かっただけかもしれませんが。

あと、去年は A4 封筒（しかも「折曲厳禁」指定）で届いたので、その点も気になります。

うちのマンションの郵便受け小さいから、定型封筒に折って入れてくれた方がありがたいんだけど、えんためはお金をかける部分が謎だ……。

まあとにかく、正解は「貞淑」なのか「貞潔」なのか、えんため側の最終結論を待とうと思います。

一次通過した電撃ですが、奇跡的に、二次も通過しておりました。

ちょ、えっ!?

これって、釣りじゃないよね!?

というわけで、初・二次通過キター!

自分は3年以上ずっと一次通過が最高成績で、永遠に二次通過できない呪われた体質なのかもしれないと悩んでいたのが、本当に嬉しいというか安心したというか。

とにかく、これで8月いっぱい「電話待ち」する権利を獲得したわけだ!

まあ、電話番号を書き間違えちゃったから、100%かかってこないけど!

……………。

毎度のことながら、残念すぎるわ自分……………。

けどまあ真面目な話、自宅の電話番号を書き間違えただけで、携帯&メールアドレスは正しく書いたはずなので、ドキドキしながら連絡を待とうと思います。

あと、8月に連絡がなかったとしても、三次通過すれば5人分のコメントがもらえるので、9月10日の三次&四次発表を待つドキドキもありますよね。

うーん。

とにかく色々楽しみすぎる。

「まだ最終まで二段階もあるのに、浮かれてる場合?」という意見もあるでしょうが、自分の場合ここで浮かれなければ他に浮かれるべきポイントがないので、落選が確定するまで思いっきり浮かれていようと思います。

とりあえず、今夜は手始めに浮かれ酒だ……………!

長年ワナビを続けるのは、精神的にツライことです。

ただ、長年ワナビを続けていて、「よかった」と思えることが一つあります。

それは、完成作品が増えていくこと。

いつも一作書き終わった後は、その作品にすっかり愛着が湧いてしまい、次の作品を書くのが寂しい気持ちになるんですよね。

小説投稿をしている方なら、そういう経験ありますよね？

投稿作なのに続編を書きたくなくなったり、もしくは、脇役を主役にした外伝を書きたくなくなったり。

でも、いざ次の作品を書き始めると、次の作品にもちゃんと愛着が湧く。

前の作品への愛情が減るわけではなく、同じくらい好きになれるんですよね。

そんな風に、好きな作品が増えていくのは、とても素敵なことだと思います。

特に小説の場合、単に外見描写をしたり、台詞を一個書いただけでは、キャラクターって成立しないじゃないですか。

話の中で行動させて、一作完成させることで、初めてキャラが「存在する」わけで。

だからこそ、たとえ一次落ちしてしまっても、キャラクターを存在させるという点で、一作完成させることには大きな意味があると思うわけです。

なんかコレ……。

うまく表現できないけど、どう言えばいいんだろう……。

とにかく小説を書き続けていれば、手持ちの球は確実に増えていくので、今後もめげずにワナビを続けていきたいです。

よっしゃー！

次はルルルに出して、評価シートもらったる！

と意気込んでみたものの、次のルルルは9月末のルルル大賞だから、評価シートってないんですよね。

しまった……。

今から書く分、どうしよう……。

ルルルカップの締切りはたぶん11月か12月（予想）になるだろうけど、評価シート目的に大賞への投稿を見送ってそれまで待つのは、何だかちょっともったいない気が。

かといって、またルルル大賞に送っても確実に落ちそうだから、できれば先に評価シートを読んで様子見したいところなんですよ。

まあでも、いっか。

送り先はあまり意識せず、ひとまず全力で書いてみます。

それから昨日「ワナビを続けるのはツライこと」と書きましたが、自分が実際にそう思っていたのは2年目くらいまでで、4年目になった今は逆に楽しい気持ちの方が大きいです。

なんか、もうね。

別に焦らなくてもいいじゃん、って。

昔は「この作品で絶対に受賞しなきゃいけない！」という強迫観念にとらわれていて、だからこそ落選した時はすべてを失ったような気分になったものですが、そうそう簡単に受賞できるものじゃないとわかってからは、逆にラクな気分になれました。

とにかく、結果が出ようが出るまいが、小説書きが好きであることに変わりはないので、これからも懲りずに書いていこうと思います。

ふと思ったんですけど、一次落ちして目の前が真っ暗になるのは、「作品の価値判断を自分でせずに、賞の評価が正しいと信じ込むから」じゃないのかなあ、と。

つまり、

1. 自信作が一次落ち
 2. この話は、面白くないんだ
大好きな作品だったのに、端から見たら魅力がないんだ
 3. 自分の作品を嫌いになってしまう
 4. さらに自信を喪失し、ワナビ的アリ地獄へ
- ……こういう状態なんじゃないかと。

そうじゃなくて、

1. 自信作が一次落ち
 2. そっか、この賞でこの作品は無理か
でも自分はこの話が好きで、その気持ちは変わらないなあ
 3. 落ちた理由を見つけて、改善した上で再執筆する
 4. さらにクオリティが上がって、もっとその作品を好きになれる
- ……と、こういう状態にもっていったら素敵ですよ。

もちろん、そう簡単に気持ちのコントロールはできないので、落ちた瞬間はどうしても心が折れてしまうものですが、それで自分の作品を嫌いになってしまうのは、何よりも一番避けるべきことだと思います。

好きなままで、いいじゃない。

他人にゴミと言われようが、あなたにとって、その作品は大切な宝物でしょう？

っていうか、「あなた」って誰やねん。

自己完結型ブログのくせに、誰に語りかけてるんだ自分は。

けど本当に、心底そう思うんですよ。

その作品を嫌いになって見捨ててしまうのも自分だし、そして同時に、愛情をそそいで書き直せるのも自分しかいない。

それなら絶対、好きでいた方がいいじゃないですか。

とまあ、そんなことをふと思ったので、何となく書いてみました。

いずれにせよ、好きという気持ちは小説を書く根本なので、大切にしたいです。

性懲りもなく、またまた日本語検定に申込完了。

受験料 5000 円もするけど、日本語マニアとしては、受けないわけにはいきません。

しかしコレ……。

何を勉強したらいいんだろう……。

前は、テキストの内容をすべて理解した上で受けたのに、そこにまったく載っていない問題が出て落ちたからなあ。

やっぱり、あれですかね。

テキストだけに頼らず、日頃から勉強して、実力をつけるしかないんでしょうか。

それと、今回も吹田市を指定したので、会場はディオス北千里になるはず。

前回、「吹田市ってことは 100 %関大だな」と思って申し込んだのに、到着した受検票に「ディオス北千里」と書いてあって、かなり衝撃を受けましたからね。

ディオス……。

まさか、日本語検定の会場に使われていたなんて……。

それはともかく、試験本番は 11 月なので、今度こそ受かるといいなあと思います。

それから話は変わるけど、週刊アスキーを記念購入しようと思ったら、今週はどうやらお盆のせいか休刊みたいですね。

マガジンにはリスト載ってるみたいだけど、週アスにも載るなら週アスを買いたいなあ。

というわけで来週まで待ってみて、来週の週刊アスキーに二次リストがなければ、マガジンを買おうと思います。

本日、GA の一次発表がありました。

えーと。

応募総数が 586 本で、一次通過が 167 本ってことは、通過率は約 28 %か。

GA は以前ブログかツイッターで、「応募総数の 3 割を一次通過させます」みたいなことを公言していたと思いますが、今回もまさにその言葉通りですね。

巷では「3 割とか GA 楽勝すぎだろ」という声もあるようですが、それにしたって 7 割が落ちてしまうことを考えると、一次通過させるのはやっぱりすごく大変なことなので、通ったらそれは誇りに思っていることだと思います。

ちなみに自分は、更新がきた瞬間、心臓が飛び出そうになりました。

でもって、「た行」をスクロールする直前に、大きく深呼吸して覚悟を決めました。

……………送ってないけど。

いや。

送ってないけど、もう癖なんだからしょうがない。

GA は発表が名前のあいうえお順だから、「た行」まで来ると、反射的に身構えてしまうんですよね。

名前順ってというのは探しやすい反面、なかった時にすぐわかるんですよね……。

順不同だったら、見落としがないか、2 周くらい探すんですけど……。

まあとにかく、今回は送ってないので、自分はひたすら応援に徹します。

直接面識があるわけではなくても、やっぱり名前を知っている人が上まで行くと、知らない人が受賞するより励みになりますからね。

そんなわけで、二次発表も楽しみに待とうと思います。

今、公募ガイドを見ていて、初めて知ったんですが。

「右肩を紐綴じ」って、右上1か所に穴を開けて、紐で結べってことなんですね。

そ、そんな……。

今までずっと、右端2か所に穴を開けて、真ん中でちょうちょ結びしてた……。

まあでも、今までそれで通っているの、2か所でも問題はないと思います。

あと、データ投稿する時のデータって、皆様はどのように送ってますか？

自分はCD-Rではなくフロッピー派なんですが、海外ワナビをしていた時にフロッピー用のケースが入手できず、仕方なくフロッピー1枚を裸で送ったことがあります。

それも通過したので、フロッピーを裸で送るのは、特に問題ないみたいです。

まあ、ちゃんとケースに入れた方が、受け取った側の印象はいいと思いますが。

それから、作品に対する意気込み。

基本的に「要項にないことは書くな」と言われているので、自分もまったく書きませんが、バンジョーニ2を送った時だけ一言メッセージを書きました。

「投稿作で続編とかあり得ないけど、書きたかったから書いたぜえ！」と。

(実際はもっと丁寧な口調です)

それも通ったので、一言メッセージも問題ないみたいです。

まあ、書くと逆効果になりそうなので、それ以来まったく書いてませんけど。

でも富士見とか、応募フォームに「意気込み」の欄があるし、むしろ積極的に書いた方がいいのかな……？

とまあ、そんなこんなの、ワナビ的ひとりごとでした。

明日は、すばるの発表あるかなあ……。

キャー。

ワタシノナマエガナイワー。

というわけで、小説すばるは一次落ちでした。

まあ残念と言えば残念ですが、3月からずっと5か月近く発表待ちしていたので、ようやく結果が確定してホッとしました。

それにしても、この東京無双は何なんだ。

見開き右下のエリアとか、全員東京じゃないですか。

人口が圧倒的に多いことを差し引いても、それでも通過者の都道府県が関東に偏りすぎて、「ひいきなんじゃないの？」と疑ってしまう。

まあ実際はそんなこと全然なく、面白くないから落ちたんだろうけど。

しかし、アレですね。

都道府県順だと、自分の落選がすぐに確認できるので、名前を探す楽しみが半減ですね。

それから、ついに発表があった一迅社。

先程 HP を見てきましたが、まさかの一次発表省略&最終結果のみ発表とか、色々すごい賞だ……。

なんかあの発表の方法だと、応募総数が何本だったのか疑ってしまいますよね。

少女系の方は一次発表も、最終候補作品の発表も、ちゃんと普通にあったのに。

まあとにかく、すばるの落選が確定したので、そろそろ8月に送る作品のカバーシートを準備しようと思います。

いやー。

今日の雷はすごかった。

雷の音って、何種類かありますよね。

遠いと「ゴロゴロ」、近いと「バリバリ」、もっと近いと「ズガン！」

今日はこの「ズガン！」が鳴り続けて、怖いと言うよりビックリしました。

雷ってこんなに連続で鳴るものなのか、と。

そんな激しい雷の中、今日はアイリスのカバーシート作りに取り組んだものの、アイリスの応募要項って、「作品ジャンル」と「作品テーマ」を書く欄があるんですよね……。

コレ、難しいなあ。

何がジャンルで、何がテーマなのか。

作品ジャンル：「ファンタジー」「歴史物」「バトル」「SF」

作品テーマ：「恋愛」「友情」「親子愛」「師弟愛」

とか、そんな分類でいいのかなあ。

それにしても、自分が送ろうとしている作品は特にジャンル分けできない現代物で、おまけに恋愛要素もそれほどないユルい日常物なので、どう書いたもんか本気で困ります。

……………。

少女系の必須要素である「ファンタジー」「恋愛」をあえて入れない、反抗的ワナビ。「そんなことだから、お前は万年一次落ちなんだ！」と、誰か優しく叱ってください。

まあとにかく、死亡フラグを恐れずに、「現代日常物」で送ってみようと思います。

執筆の中で一番好きな作業は、ずばり「タイトル決め」です。

そんなわけで、自分が今までに書いた作品のタイトルを分類してみると、だいたい以下の3パターンでした。

【意味のないカタカナ】

- ・バンジョーニ！
- ・バンジョーニ！ 2
- ・インキュラブ

何のことかわからない意味不明なカタカナに、話の中で意味を持たせて、それをそのまま作品タイトルにするパターン。

別に関係ないと思うけど、このパターンで書いた話は、何故か成績がいいような。いや、まったく関係ないだろうけど。

【漢字の単語＋カタカナの単語】

- ・南国サンクチュアリ
- ・貞潔サディスト
- ・激烈ワナビ戦

「無罪モラトリアム」的な、初期の椎名林檎スタイル。

執筆完了後にタイトルで迷ったら、このスタイルがオススメです。
作品のキーワードを列挙して、適当に繋げてみれば、あらやだタイトルっぽい！

【文章タイトル】

- ・地中海の太陽は大きい
- ・神父とローマと6月の花嫁
- ・好きです、ザビエル様っ！

あざとくなりすぎないように、控えめに付けた文章タイトル。
まあ「神父とローマと（以下略）」は、文章なのか単語なのか不明ですが。

このスタイルは、最初に挙げたカタカナタイトルとは逆に、どんな話なのか読む前にある程度わかるのが利点ですね。

投稿作の場合、イラストも宣伝文句もなく完全に文章だけの勝負になるので、作品タイトルや章タイト

ルで読み手に情報を与えることは重要だと思います。

たぶん他にもあると思いますが、また思い出したら書いてみます。

一迅社の発表（去年分）が済んだので、予定通り手持ちの作品を送ることに。

ラノベ投稿者の間では「8月＝富士見ファンタジア」みたいな常識があるけど、「一迅社 New Generation Award 2012」を選んだっていいじゃない。

発表、早くなるみたいだし。

一次通過すれば、評価シートも来るみたいだし。

まあとにかく、一迅社はフロッピー不可なので、CD-R にデータを書き込んでみました。

なんかなあ……。

容量 700MB もあるのに、使うのが 150KB って、もったいないなあ……。 (貧乏性)

それから、一迅社アイリスの方も、カバーシートを印刷しました。

結局「作品ジャンル：現代日常物」と書いたけど、「死亡フラグが立った」と言うより、むしろ進んで立てに行ってる感じです。

本当にもう、何度も何度も書いてるけど、最近の少女系はどうしてこんなにファンタジー無双なんだろうね。

自分が子供の頃は「講談社ティーンズハート」というピンクの背表紙のレーベルがあって、ファンタジー要素のない学園物の少女小説がたくさん出ていたのに、その頃が懐かしいです。

あ、今のヤバイ？

「昔は良かった」って台詞は、老化の証拠で赤信号？

……まあいいや。

仮に赤信号が点灯しようが、信号ぶっちぎりで投稿しようと思います。

二次通過リスト - 2012.08.21 Tue

イエーイ！

二次通過リスト、ゲットだぜ！



あ、あれ？

マガジン掲載分は3列だったはずなのに、週刊アスキーはなんか体裁が違うよ？

まあでも、これも二次通過リストには違いないので、無事に入手できて良かったです。

今後つらくなったら時は、このリストを見て自分を励ますんだい。

ベホマズンとまでは言わないまでも、ベホイミ程度の効果は十分にあるからな。

なんかもう、アレですわ。

受賞しなきゃ意味がないってことはわかってるけど、それでも二次通過できただけで心の底から満足だわ。

今後は投稿歴に、電撃二次通過って書けるし。

今まで3年ちょっと、ひたすら一次通過歴しか書けず、肩身が狭かったからな。

まあでも、あわよくば三次通過して、来月も週刊アスキーを記念購入&5人分の評価シートを受け取りたいところです。

え、電話？

まったく来てないよ！

自分の場合は電話ではなく、三次通過が最大の目標です。

頑張れ、らくだ……！

頑張れ、インキュラブ……！

今日テレビで甲子園を見ていて、解説者が「一校（優勝校）以外は、どこかの段階で必ず負ける」と言っていたんですが、その台詞が妙に印象に残りました。

よくわからないけど、聞いた瞬間ハッとした。

あまり意識しなかったけど、考えてみれば、確かにその通りだなあーって。

初戦で負けるにしろ、決勝戦で負けるにしろ、優勝校以外には必ず負けが訪れる。

だからこそ、負けた時の覚悟は必要だと。

そしてそれは、小説投稿にも言えることじゃないかと。

もちろん「負けるかも……」なんて弱気な構えじゃ、勝てる試合も勝てなくなるから、「絶対に勝つ！！」という意気込みは必要だと思います。

でもそれとは別の次元で、負けを覚悟する気持ちも、必要だと思うんですね。

小説投稿についてもしかりで、「絶対に受賞する！」と信じる気持ちは必要ですが、それだけだと落選した時に目の前が真っ暗になるので、落ちた時の気持ちの立て直し方も知っておくべきだと。

まあでも甲子園については、負けた後に号泣する姿も、青春っぽくて素敵ですけどね。

「負けた＝意味がなかった」ってわけではなく、甲子園で本気で戦ったことに大きな意味があるわけで、その経験はその選手の心に一生残るはず。

小説投稿についても、「落選した＝意味がなかった」ってわけじゃなく、一作書き上げて投稿したことに意味があるわけで、その経験は決して無駄なものじゃない。

夏の主役である甲子園球児と、自分のようなダメワナビを重ねるのもおこがましいですが、今日はそんなことを考えた一日でした。

困った……。

フロッピーはゲットできたけど、フロッピーに貼るラベルがない……。

電気屋、取扱なし。

雑貨屋、取扱なし。

ホームセンター、取扱なし。

というわけで、完全に諦めモードでダイソーに寄ったら、ダイソーには普通に置いてありました（しかも3種類も）。

あーん！

ダイソー素敵い！

で、買ってきて開けてみたら、安心&太っ腹の「80枚入り」。

わーお！

あと80回落選しても平気だね！

いや。

実際は2~3枚でよかったんですが、備えあれば憂いなしということで。

思えば綴じ紐も結局ダイソーで買ったし、「これ、どこに売ってるだろう？」と思う品物は、意外とダイソーにあるかもしれません。

そんなわけで、8月分の作業が終わったので、そろそろ9月分の作業に手を付けないと。

各賞の締切りが4~5月に集中している春と違って、秋は送りたい賞の締切りが割とバラけているので、一つずつ確実にこなしていこうと思います。

えんための応募総数って、729 作品だったんですね。

なんだ。

普通に多いじゃないか。

一次発表の時に総数の記載がなかったから、公表できないほど減ったのかと邪推してましたが、単に記載漏れだったってことかなあ。

それにしても最近思うんですが、応募数が増える賞と減る賞が、かなりはっきりと分かれていますよね。

一つの理由としては、最近はおとんの賞に評価シートがあるから、各賞の特性が以前よりわかりやすくなったじゃないですか。

だからこそ、「自分に合わない」と思った賞は投稿をやめるし、「見込みあるかも」と思った賞には複数投稿するし、それでこんな極端な状況になっているんだと思います。

まあ、いいことですよね。

以前のように落ちた理由がわからないと、毎年見当違いな作品を送り続けることになってしまうので、投稿者にも選ぶ方にも余計な負担がかかるじゃないですか。

でも今は幸いなことに落ちても選評をくれる賞が多いので、「この賞はなんか違う」と思う部分があったら、あまりムキにならずにきっぱり身を引くのも、ワナビとして必要なことだと思います。

いいんだ！

それは「逃げ」じゃなくて「選択」だ！

そう言って自分を励ましつつ、今日は以上です。また明日ー。

突然ですが、今日は公募の紹介を。

「旅のノンフィクション大賞」

【募集内容】 海外旅行に関するエッセイ

【字数制限】 800字～4000字

【締切り】 9月14日（金）必着

【主催】 読売新聞大阪本社

公式ホームページはコチラ

<http://www.yomiuri-osaka.com/tabinon/index.htm>

ちょ、旅行エッセイの公募！？

うおおおおおん、今すぐ出すぜえええい！

……ウザイ人間ですみません。

しかし今でこそラノベワナビをやっている自分ですが、そもそも最初は旅行エッセイを書きたいと思っていたので、この賞に応募しないなんてあり得ないYO！

まあでも上記HPに載っている過去の受賞作がどれも感動的で、自分のショボイ経験談で太刀打ちできるのか不安ですが、書きたい気持ちは非常にありまくるので、とにかく張り切って書こうと思います。

というか、もう書けました。

何しろオイラはワナビだから、4000字なら一日で書けちゃうよ！

しかし出来は……、どうだろうなあ。

自分の中ではすごく感動した経験なんですけど、客観的に見るとスケールが小さい気がするの、締切りギリギリまで見直してみようと思います。

そして最後にもう一度言いますが、過去の受賞作はどれも本当に感動的なので、旅行好きな方は是非ご覧ください。

どれも4000字以内だからすぐに読めるし、オススメですよ……！

昨日勢いで書き上げた、4000字の旅行エッセイ。

いかん……。

見直しつつ書き足していたら、4500字に増えてしまった……。

しかしどの一文にも愛着があって、どうでもいい文章は一つもないので、どこか削らなきゃいけないと思うと、ツライというか寂しい気分です。

そうか……。

字数越えて作品を削るって、こんなに切ないことなのか……。

しかし、すべての文章が大切だから、削れないったら削れないよっ！

それと、昨日書いた話がスケール小さめに思えたので、今日改めてもう一本別の話を書いてみました。

昨日書いたのは、マカオの思い出。

今日書いたのは、広州の思い出。

応募は一人一編だけど、どっちを送ろうかな……っていうか、むしろこの勢いで他の地域の話も書いて、深夜特急を気取りながら、長編として投稿できそうな勢いです。

第一章 モンゴル

第二章 北京

第三章 上海

第四章 香港

第五章 マレーシア

大陸を南下しつつ、最終話でシンガポールに辿り着く、そんなアジア縦断紀行。

イタリアに行ったことないのに妄想でイタリア旅行記を書いて投稿したことはありますが（地中海の太陽は大きい）、こっちは行ったことがある国々なので、割とリアルに書けそうな感じだし。

まあ実際に書くかはわかりませんが、アジア旅行記も、執筆候補に加えてみようと思います。

最近急増している、携帯小説の新人賞。

自分も思い切って挑戦してみようと思うんですが、しかし「携帯小説」って、いったいどう書けばいいんでしょうか？

【携帯小説】

イエーイ、学校に到着したよ (° ▽ ^*) ♪
今日も一日、全力でガンバリまっす↑↑↑
ってか皆、なんで必死に勉強してんの？ (・_・) (・_・) キョロキョロ
マジ!? 今日テストあるとか、聞いてないんですケド! (° □ ° ;)

……こんな感じ？ (たぶん違う)

しかし最近の若い子達は、メールを書くような感覚で気軽に携帯小説を書いていて、それが人気を集めて書籍化されたりする場合もあると思うと、つくづく時代は変わったなあと思います。

自分が高校生をしていた頃は、携帯なんてなかったもんなあ。
ポケベルやワープロは、かろうじてあったけど。

まあこんな場所で昔話をしても仕方ないので、いっちょ学生時代の自分に戻ったと思いつつ、しゃかりき気分を書いてみようと思います。

(「しゃかりき」がすでに昭和というツッコミ希望)

その携帯小説の賞以外にも、秋は単発的に出したいコンテストが多いので、締切りをリストにまとめつつ、順番にこなしていこうと思います。

角川文庫を買ってハッケンくんグッズをもらおう！

というわけで地道にポイントを集めているんですが、今って、QR コードを使って携帯からアクセスする方式なんですね。

むー。

昔は銀スクラッチで、PC から登録できたのに。

ってなわけで、Galaxy を手に取ってみたが、QR コードを読み取る方法がわからん。

え……？

まさか QR コードのリーダーは、デフォルトで入ってるよね……？

しかし本当に見当たらず、カメラで撮ってみたけど、当然ながら何も起こらず。

そんなわけで、仕方なく説明書を開いたところ、衝撃の事実が！

Galaxy には、QR コードリーダーが入っていない！

本気で驚きながら、iPhone を手に取ったら、iPhone にも入っていない！

まあ結局、無料アプリを入れてアクセスはできましたが、地味に衝撃的でした。

おそらくユーザーの中には、「あぶりをだうんろーど？ 何それ、どういう意味？」と思う方も、たくさんいると思うんですが……。

以前 IT 企業で働いてたけど、そんな経験山ほどあるよ……。

まあ、アレですね。

携帯をあまり使わない自分には、少し戸惑ってしまう出来事でした。

以上、スマホをスマートに使えない常木らくだがお送り致しました。

きました、ビーンズの二次発表！

「第 11 回角川ビーンズ小説大賞は一次選考の結果、下記の 12 作品が選考を通過いたしました。二次選考の結果は、2012 年 9 月末に発表予定です。」

うわー。

一次選考が二回もあるなんて、さすがビーンズは難関だなー。(棒読み)

なんか、「言わぬが華」みたいな雰囲気漂ってるけど、遠慮せずに言っちゃおうよ！
っていうか、このラノ発表時も同じことを書いたような気がして、激しいデジャヴ！

まあ何はさておき、ビーンズの難関っぷりは、何度見ても恐ろしい限りです。

ででで、でもくじけないもん！

次回こそは、ビーンズに送るんだから！

あと話は変わりますが、「いたばし絵本翻訳大賞」の HP が更新されましたね。

去年の結果は結局 HP に載らずじまいだったので、今年も募集があるのか不安に感じていましたが、「9 月 1 日に詳細発表」と掲載されたので、とりあえず一安心です。

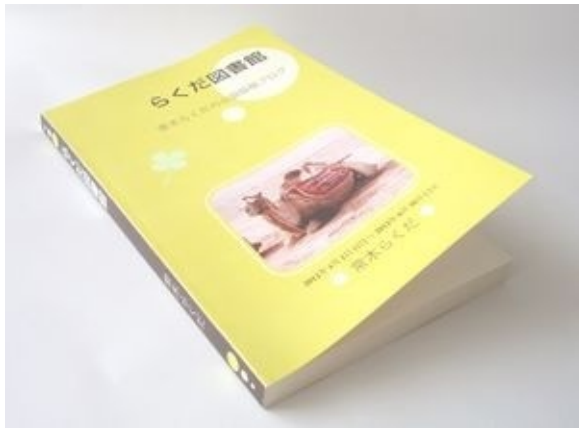
去年はクマが変身する話だったけど、今年はどういう話かなー。

そんなわけで、近ごろ単発的なコンテストに力を注いでいて、本筋であるはずの小説書きが一向に進んでおりません。

送ると意気込んでいた 9 月のルルルは、何となく今からじゃ無理な気がしてきたので、あきらめて 10 月の SD 用に向かうべきか悩むところだ……。

以上、優柔不断な常木らくだがお送り致しました。

「らくだ図書館」が本になりました！



といっても、出版社さんから声をかけていただいたわけではなく、ましてや自費出版に手を染めたわけでもなく、ブログの製本サービスを利用して個人的に作っただけです。

要はまあ、同人誌ですね。

ちなみに、利用したのはコチラのサービス↓

【ブログ出版局】<http://print.cssj.jp/>

「ハードカバー」や「ビニール加工」等、様々なオプションを選ぶことができますが、自分は初めてで勝手がわからないので、とりあえず一番安い「モノクロ標準」で頼みました。

しかし、十分に本格的です！

自分でホッチキス綴じするのとは、明らかに違います！



このように無線綴じ加工で、背表紙も付けてもらえます。

(極端に薄いと、中綴じになる場合もあるようです)

コホン。

そして気になるお値段ですが。

今回製本したのは1月～6月分の記事で、全229Pになりましたが、かかった費用は3,172円（送料込）！

「やっぱり3,000円は越えるかぁ……」と思いつつ申し込みましたが、完成品が実際に届いて思ったことは、「このクオリティで3,000円なら安い」！

CDアルバム一枚の値段で、自分の本が出来ると思えば、決して高くはありません！



そしてさらに！

自分で作ったオリジナルブログ本は、広く一般に頒布することができます。

何故「販売」ではなく「頒布」と言ったかということ、仮に3,172円払ってこの本を購入していただいても、常木らくだの懐には一円も入らないからです。

そこはあくまで、「自費出版」ではなく、「製本代行サービス」ということですね。

まあしかし、「ブログ出版局で本を作るとこういう機能が使えるよー」という意味を込めて、頒布ページのリンクを貼っておきます。

<http://print.cssj.jp/b2c/order/estimate.php?id=8CACEF7928A11AC3>

そんなこんなの、ブログ製本サービス。

見本PDFは無料で何度でも作れるので、ご興味のある方は、挑戦してみたいはいかがでしょうか？

今日は8月31日ということで、富士見ファンタジアの締切りや、GA前期の二次発表などがありました。

それから、第2回長編ルルルカップの総評も載りましたね。

気になった部分を、ちょっとブログから抜粋しますが……↓

【少女小説の王道要素でもある「お姫様、王子様、花嫁、ファンタジー」を楽しく展開した作品はもちろん楽しかったですし、その王道要素だけに囚われることなくそれどころかその手があったかと思わせるようなアイデアがあったりして感心しきり】

(元 URL : http://lu3.gagaga-lululu.jp/edit/2012/08/post_219.html)

これって「お姫様、王子様……」の王道要素を使わない作品、って意味ではなく、それらの王道要素を使いながら、さらに複雑なことにチャレンジしている作品、っていうことですよ？

すごいなあ。

そんな誉められ方をするなんて、どういう設定だったんだろう。

今やルルルカップは長編になって、優秀作品のウェブ公開はなくなってしまいましたが、上のように評された作品を激しく読んでみたいです。

この賞って、そもそも自分にとっては、読者として楽しむものだったからなあ。

短い枚数でどうテーマを処理したらいいのか、掲載作品を読むと勉強になるから本当にオススメ……って、オススメしても今はないんですけどね（苦笑）

その時の名残で、今でもつい情報を追ってしまうルルルカップですが、いつかは自分も書き手として参加したいです。